

昭和の南海地震体験談

氏 名: 富田 さかえ(とみた さかえ)

生年月日: 昭和 12 年 2 月 4 日

地震を体験した場所: 田辺市

当時の家族状況: 祖母、父、母、兄弟姉妹 10 人 計 13 人



1) 地震発生時の状況

当時 9 歳、父はサンマ漁に出ていて留守。寝ていて、家族に起こされ、家の外に出た。

近所のお爺さんが「海を見てくる」と言うので、家の外で、近所の人達と、お爺さんの戻るのを待っていた。

お爺さんが「潮が引いているから大丈夫だ」と言ったが、揺れ戻しが来て、再び、お爺さんが海を見に行き、「津波来る！」と言ったのと、「ドーン」と海が鳴ったり、「ピカピカ」光ったりしたので、近所の人が騒いで、いよいよ逃げるとなると、姉に手を引かれて、寺に向かって逃げた。

途中、普段は、生活排水ぐらいしか流れていない溝に嵌まって、首まで浸かった。

姉と、寺の向こうに避難し、焚き火で暖めて貰った記憶がある。途中、傘屋の竹が浮いていたのが印象的だった。



<写真は姉妹で逃げた寺>

2) 津波襲来時の状況

「寺ではアカン！」と、その先の、山の上の、私が通っていた、小学校のグラウンドまで逃げた。

<地震＝津波>は、その時、知った。

3) 家族の行動・被害

私は、姉と逃げた。祖母や母は、それぞれ妹や弟を連れて、同じ山の上にある小学校に避難したので、再会した。

4) 集落・周囲の被害

空き巣が出たので、皆、潮引くと早々に、家に戻った。

家にも、水は来ていたが、大した事無かった。

この土地は、南海道地震津波の前後も、台風による洪水・水害や津波が来て、何十年か後に家を壊す時に、その解体現場を見た時、何時の水跡かは不明だが、「ここまで水来たんやなあ」

という線が、はっきり判った。

5) 地震・津波後の生活

普段通りに生活したと思う。

近所の漁港に、何度も新庄(田辺)の遺体が流れ着いたり、旗を立てた漁船が、遺体を引っ張って来たりしたのを見に行ったことを、覚えている。

かなり長い期間、遺体収容があって、ある時、とても大きな男の人の遺体で、長いこと水に浸かっていたので膨れて、桶型の棺に大人達が難儀して遺体を押し込むのを見たのは忘れられない、寒いときだったから綺麗な遺体だった。

6) 次の災害への備え

結婚して、実家より、海の近くに来たので、不安はある。

南海道大震災以降も、水害、台風、チリ津波も経験した。

今度もきっと、同じ小学校に逃げるだろう。